



進路研究をサポートする、保護者がしなければならないこと

お子さまの進路研究から受験まで、保護者はどのようなスタンスで、どのような役割を果たせばいいのでしょうか？
長年、大学で進路相談や入試に携わってきた
女子栄養大学の染谷忠彦先生にアドバイスをいただきました。

女子栄養大学 常任理事 染谷 忠彦氏

長年大学運営に携わり、各種高等学校評議員、キャリアスーパーバイザーなどを歴任。先駆的な入試改革や斬新な広報活動で話題になる。秋田県公立大学法人国際教養大学の立ち上げにも協力。マスコミでの活動や講演活動も多い。2003年から女子栄養大学常任理事。



目的意識を持てるように 学びの現場に触れさせる

進路を考えるときには目的意識が大事です。しかし、いくら「目的意識を持ちましょう」といっても、高校生の年齢では難しい場合もあります。では、どうすればいいのか？ 一つの方法として学びの現場に触れさせることがあります。大学に進学したいなら大学に触れさせるということですね。

昨年夏、ある高校の1年生がクラス全員で本学のオープンキャンパスに参加しました。その生徒たちは、朝来たときにはそれほど興味なさそうな様子だったのですが、帰るときには目の輝きも態度も驚くほど変わっていました。自分の知らない世界に触れ、新しいものを目の当たりにした喜びがあったのだと思います。

そのくらい現場に触れる意義は大きいので、オープンキャンパスには積極的に参加してみるといいでしょう。それも、文系志望でも理系の学校を見学してみるなど、分野にとらわれずにいろいろな学校に行くことが大切です。さまざま刺激を受けることで、やってみたくことに気づいたり、考えていなかった分野に興味を持ったりすることにつながります。

よきアドバイザーとして ともに進路を考える

お子さまの進学に際しては、保護者の皆さまにも大切な役割がいくつかあります。その一つは、お子さまの進路と一緒に考えてあげる、よきアドバイザーになることです。

保護者のアドバイスは非常に大事です。お子さまをいちばんよく知っているのは保護者ですから、そのアドバイスには重みがあります。いろいろなデータを見ても、高校生が進路の相談をする相手としては親、それも母親のウエートが高いのです。お子さまも保護者の意見を参考にしたいということでしょう。

ただ、意見を言うときには、その伝え方に気をつける必要があります。「こうでしょう」「こうなさい」と意見を押しつけるのは避けなければいけません。お子さま自身が考えをまとめていけるようにアドバイスすることが大切です。

間接的に意見を知らせる方法もあります。保護者の会話をお子さまに聞かせるのです。会話は、お子さまの耳にも入りますから、「親はこんなふうに考えているんだ」というように、自然に理解し、参考にすることができます。

進学先の最新事情を調べて 適切なアドバイスを

お子さまのよきアドバイザーになるには、進学先の現状を知ることが必要です。保護者の皆さまが高校生や大学生だった時代と現代とでは、進学先を取り巻く環境が大きく変わっているからです。

学校の難易度だけ見ても、昔と今とではずいぶん変わっているところが少なくありません。入試も様変わりして多様化が進み、学校ごとに数多くの入試方式を設けるようになっていきます。そのなかから最も得意な方式を見つけることができれば、受験は有利になります。

進学先の現状を知るには、お子さまと一緒にオープンキャンパスや進学相談会に参加されるといいでしょう。そして、お子さまとは違った視点で学校の様子を確認したり、情報を集めてみましょう。

このように、お子さまとともに行動し考えることは必要ですが、丸抱えにならないようにしたいものです。あれもこれもと手をかけるのではなく、してあげたいことの50%くらいに抑える気持ちを持ちましょう。保護者はアドバイザーに徹し、お子さまが自分で結論を出すようにするスタンスが大切です。

健康管理や生活習慣づくりも 保護者の大切な役割

お子さまの健康管理も、保護者の皆さまの重要な役割です。

試験日に高熱を出しながらも会場にきて、医師や看護師の付き添いのもとで試験を受ける受験生が毎年のようにいます。しかし、そうした受験生で合格した人を見たことがありません。こんなことになったのでは何年間も勉強してきたことが報われません。保護者の皆さまには、食生活をベースに、お子さまの健康をしっかり管理していただきたいと思います。

生活リズムを守ることも大事です。人間の遺伝子には体内時計が組み込まれていて、昼に活動して夜は寝るリズムになっています。入試も昼にあります。お子さまの生活リズムが夜型だったら、昼型に転換できるようにしてあげましょう。

また、推薦入試などの面接では、面接官である大人ときちんとした会話がすることが大切です。その鍵は「おはようございます」「いただきます」「ご馳走様」「ってきます」を言えるかどうか。このわずか4つの言葉を言える人は、面接でもきちんとした会話ができます。ご家庭で習慣にしてみたいはいかがでしょうか。